

# 総務企画防災常任委員会行政視察報告書

横 山 育 男

## ○静岡県三島市

### 三島市業務継続計画（BCP）の取り組みについて

#### 【所 見】

このたびの総務企画防災常任委員会行政視察では、静岡県三島市と焼津市を研修して来ました。

1日目三島市においては、三島市業務継続計画（BCP）の取り組みについてでありました。BCPとは、近年多発している大規模地震や豪雨等による災害時に行政業務が麻痺・停滞してしまうことのないよう、あらかじめ災害時において必要不可欠な初動業務・危機管理体制等を検討・予測・準備計画を立てておくというものであります。

特に参考になったのは、職員一丸となって全庁的な体制で取組んでいるということ。また、東日本大震災を教訓に、より実効性を高めるために災害対策本部の班割り、業務分担を行政機構にこだわらず全面的に見直したこと。職員だけでなく、委託・嘱託職員に対しても定めていることなどでありました。行動する職員の構成・レイアウトをわかりやすくし、行うべき業務内容も明確に定め、必要頻度の少ないサービスは停止して、人命・避難を優先し、被害を最小限に抑えるよう配慮されたものでありました。

ただ一点、三島市と足利市との立地・地形・面積の差から鑑みると、三島市で採用している災害時における対策本部への職員の招集であります。この部分は、本市においては少し検討する余地があるのではないかと思います。東西20キロメートル、南北を渡良瀬川が分断し、北部は山間地である足利では、職員の住まい近くの指定避難拠点へ集合し、そこでやるべき業務のマニュアル、役所近くに住まいの人員による本部体制、各避難場所との連絡・連携が時間的にも初動体制として望ましいと感じました。

いずれにしても、このたびの三島市の取り組みを参考にしながら本市に合ったBCP策定に早く取組む必要があることを痛感したことをもって所見とします。

## ○静岡県焼津市

### 公共施設マネジメント推進事業について

#### 【所見】

2日目に訪れた焼津市では、公共施設マネジメント推進事業について研修しました。

全国的に昭和30年後半から同40年後半のオイルショックまでに計画し、同50年代半ば、いわゆる高度成長期に建設・整備した公共施設・インフラの老朽化、近年発生している天災・災害に対する耐震基準への対応、加えて少子化による将来を見据えた施設の統廃合を国でも懸念し、公共施設のマネジメント、管理計画策定を地方自治体に要請してきました。

焼津市では、国からの指示がある以前より取り組み、既にいくつかのモデル事業として学校と公民館の複合化などを進めていました。特筆すべきは、各課各所管で検討させるのではなく、市長との連携のもと、担当課が独自に考え目標を設定しておのおのの所管に必要性を説得しリーダーシップを持って推進しているとのことでありました。説明に当たった職員の覚悟と使命感を強く感じました。ただ、リーダーシップの必要性を感じたとともに任務に当たる職員あるいは指示を出す市長は、市民への説明と理解を根気よく行っているのだろうと、その労力も大変であろうと感じました。

話を聞く上で、こちらの事業でも足利市との地形の違い故のギャップを感じました。焼津市は、元々まちの地形がコンパクトシティであり、各施設がほどよく分散、平準化されているので、これまで別々につくっていた物を複合化することによってコストの削減を図れる利点があるということです。

一方、我が足利市は先ほど触れたように地域ごとに人口の密度も違い、必要施設へのアクセスも沢伝いの地域があること。少子化に伴いどうしても統廃合が必要な施設もあることを考えるとさらに大変なことであり、市長・担当が安易にリーダーシップをもって進めることも出来ないと感じました。さらには地域性を持つ我々議員もマネジメントの際には、関係する市民と真剣に話し合い理解を求め行政とともにやらなければならない事業であると改めて感じさせられました。